

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200078		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護 (1階 萌)		
所在地	大阪府守口市大日町4丁目27-10		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2793200078&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の尊厳と自立を守ること、制止するような言葉は使わず、お客様のペースで過ごしていただくことを大事にしています。また、現有能力を生かすことや見つけ出せるようにケアし、自立支援の為のお手伝いをさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニットごとに職員が知恵を出し合い作られた理念は、草や木の芽が伸び始める様を表す「萌」のユニットは、のびのびと暮らして頂く事を謳い、光り輝く「燦」のユニットではその人らしく暮らせるようにと謳われています。管理者と職員は常に理念を意識し利用者の持てる力に注意を払い利用者の立場に立った支援を心掛け、利用者の「ありがとう」の言葉が日々の励みとなっています。昼夜逆転傾向にある利用者の様子からはその原因を探る中で、夜間でも時間が分かりやすい時計の設置を試みたり、また排泄支援の必要な利用者には在宅時のトイレの位置からヒントを得て工夫する事で、トイレ誘導の足掛かりを掴むなど、利用者の思いや行動パターンの把握し支援しています。職員の観察力や会議での検討が、利用者の生活の居心地の良さに繋がっているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、経営理念を唱和し、意識付けを行い実践している。また事業所内での理念をつくり共有している	理念はユニットごとに職員間で考え、のびのびと暮らして頂く事や、その人らしく暮らせるようにと謳われています。常に理念を意識し利用者の持てる力に注意を払い、利用者の立場に立った支援を心掛けています。又、家族会でも発表し、職員の日々の支援への振り返りとなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内会の広報から地域の情報が入ってくる。地域の行事にも積極的に参加し、できるだけ散歩することで近隣の方と接するよう支援している。	子ども見守り隊の制服を着て地域に出かけたり、散歩で出会った方々と挨拶を交わすなど、日々自然な交流があります。小学校や中学校からの職場体験が行われたり、地域行事のウォーキングフェスタや、盆踊りの練習に利用者と共に参加し、地域交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を地域の方々に発信してはいるが、なかなかうまく活かせてはいない。近隣の小学校の『見守り隊』に参加し活動中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ご入居者様、家族様、オーナー様、地域の方から意見を頂き、ホームの運営に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度行われ、行事や状況、ヒヤリハット事例を含めて報告し、意見をもらっています。勉強会を行ったり、参加者を広める努力をしています。土曜日の開催は参加しにくいとの声もあり、今後に向けて曜日やテーマの工夫で新たな取り組みを模索中です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には電話連絡を行ったり、市の担当者からは、メールにての連絡がある	事故報告も含め必要時には役所に出向き、機会を見つけて担当者と話し合うようにしています。市の主催する地域密着型事業所交流会に参加し、市職員との情報交換の機会を得たり、介護の巡回相談会には会場の提供を行うなど友好的な関わりとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はしていないが、人員が手薄になる時間帯は、トラブル防止の為に一時的に(短時間)施錠することがある	ホーム内研修で職員の身体拘束に対する理解を深め、利用者の行動を制止しない事を信条としています。また、利用者の立場に立つことが身体拘束をしない支援であると伝えています。外に出たい方があれば寄り添い、共に行動するなどの支援を行なっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会をもっている。ホームで行うホーム内研修は定期的に行っている		

ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際理解しているスタッフは半分程度。現時点で学ぶ機会は一部のスタッフのみである		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書と契約書をすべて読み上げ、十分に説明し理解を得ている。また、何らかの変更があった場合には必ず説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時での家族様の意見を聞く機会を設けている。その他面会時にも都度状況報告し、意見を聞いている。	面会時や家族会で意見や要望を聞くようにしています。介護度の様々な方々が共に出来ることはないかと家族から意見が出され、家族会で検討し、歌やパズルなどホームで出来る遊びを作りだし楽しんでもらうなど、共に考え運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ホーム内研修時でのスタッフからの意見の収集や必要時には個人面談を行い、聞く機会を設けている	毎月の職員会議やケアカンファレンス時には職員の意見が活発に出されています。出された意見やスタッフ同士の意見の違いなどは、職員間で解決に向けて話し合えるように管理者は調整しています。職員の意見を収集し、有給休暇や休憩が取りやすいように検討もしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、キャリアアップ制度、資格手当等がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修として1ヶ月に1回以上は常勤スタッフが主体となり研修を行い、研修を行う側も受ける側もスキルアップを図っている。また、社外の研修を受ける機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会にて他のグループホームとの交流、情報交換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。アセスメント時にも相手が話しやすい雰囲気作りに配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。家族の要望を聴きながらも本人の思いを優先できるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた際だけでなく、手紙、電話等を通し、家族様との絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様及び家族様等からこれまで大切にしてきたもの等を聴き、関係が途切れないよう努めている	友人や親戚などから届く手紙の返事ができるように支援を行っています。来訪者がある時は会話がしやすいように配慮しています。孫の結婚式に参加したり、家族と墓参りに行く等、関係継続に向けた支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握した上でトラブルのないよう利用者同士が関わりあえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけそれぞれの思いや意向を知ることができるよう日々のケアやコミュニケーションに努めている。困難な場合も本人本位に検討している	入居前の様子を利用者や家族から聞き、日々の暮らしや家族構成・生活歴など多くの情報を得るようにしています。その情報と入居後に日々の関わりで得た情報をもとに、カンファレンスで話し合い思いの把握に努めています。困難な時は、行動から原因を探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報共有や、ご本人やご家族様との会話の中からそれぞれの馴染みの暮らし方を把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のケアや会話の中でその時その時の心身の状態や有する力を把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りはもちろん、サービス担当者会議、家族の意向など意見やアイデアを出す場を設け、できる限り現状に即した介護計画を作成している	事前に聞き取った家族の意見や本人の思いを基に介護計画は作成しています。毎月のケアカンファレンスで職員の意見を集約し、状況によっては医師や看護師の意見を反映しています。3か月に1度の見直しに当たってはモニタリングを行い、状況の変化があれば都度計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートなどを活用し、情報の共有、実践、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズに対応できるよう日ごろから柔軟な支援(チームケア)を心がけている		

ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限りグループホームでの生活が継続できるように出来る限りのサービスや資源を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、及び家族等納得が得られたかかりつけ医と提携している	入居時に希望を聞いてかかりつけ医を決めています。提携医は月2回の内科往診、心療内科による往診が月1回あり、毎週訪問看護による健康管理がなされています。、24時間の対応が可能であり医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の訪問や定期訪問の際、普段と違う様子があれば、報告相談し適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、提携医、訪問看護師と密に連絡を取り、ホームとして出来る限りの対応をすることを取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、提携医、訪問看護師と密に連絡を取り、ホームとして出来る限りの対応をすることを取り組んでいる	重度化や状態が悪化する中で医師や家族と話し合い、出来る限りの支援をしています。医師からは事業所の出来る限界など伝えてもらうなどの対応を行っています。実際には看取りの経験もあり、看護師から状況の変化に向けたレクチャーを受け職員の不安に対応し、家族からねぎらいの声を聞くなど大きな経験となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で緊急時の対応の研修を行っている。訪問看護師による指導研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行うことと、災害時におけるスタッフの役割を決めている	年2回消防署の立ち会いを基に、主に夜間帯を想定した避難訓練を行っています。家族にも声かけを行い参加を得ており、運営推進会議で予定や実施の報告を行っています。地域への声掛けは十分ではないと考え、今後に向けての検討課題と考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室の部屋を提供し一人一人の尊重とプライバシーの確保に努めている	相手の立場に立ち、「もし自分が言われたらどうする」と言う視点で考え対応するように話し合っています。自尊心を傷つけ無いよう配慮し、トイレの失敗などもさりげなく対処するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたいことや希望など自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングなどでご自分のペースに合わせてゲームやカルタなど希望によって支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットサービスや髪飾りなどをしたり、衣類などのボタンがないように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食事作りをしたり、食事の後片付けなど積極的に一緒に行っている	食事作りでは、切ったり、味見、混ぜ合わせるなど、利用者の出来ることを見つけて携わってもらっています。献立を聞く中で、TVで見た新しいカップラーメンを希望する方がいたり、時には要望にそったハンバーグを献立に乗せる等、楽しみとなるよう対応しています。また、巡回のパン屋で好きなパンを選ぶ、行事食や外食、出前を頼む等、食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養のバランスを工夫し水分もその方によって好みの飲料水を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後実施し、口の中が清潔に保たれるよう支援している		

ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の力やパターンを把握し、オムツの使用を減らしトイレでの葉お説の支援を行っている	個々の排泄の状況を把握し、パッドの種類を変えるなどの工夫で布パンツで自立した排泄支援を心掛けています。失敗やトイレ以外での排泄を繰り返されていた利用者に対して試行錯誤を繰り返し、在宅時のトイレの場所との違いを導き出し、排泄の改善に至った経験があります。観察し課題を明らかにして検討を繰り返し、職員は利用者の快適さに向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事は消化吸収の良い献立を心がけ、ラジオ体操や散歩で体を動かし便秘を防ぐよう働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添った入浴の形で安心して入浴を楽しんでいただけるよう配慮している	毎日入浴の準備を行い、利用者毎に湯を張り替え、午後からの時間帯で週2回は入浴してもらえるようにしています。時間帯については、希望があれば要望に応えるように考えられています。拒否傾向の方には好きな音楽をかけたり、声かけに工夫をするなどを試み、入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて休息や昼寝の時間を設けている。寝具は順次日光にあて、清潔を保ち安眠できるよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット、服薬は常に厳重なチェックを行い、服薬後の効果や変調に気を配り、提携医看護師と常に連絡を取り合える環境設定をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、お米研ぎや洗濯物干し、または車椅子に座ったままでもできるお盆拭きやタオルたたみ等でお手伝いを楽しみ、張り合いのある生活をしていただけるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々テラスで日光浴をしたり、スタッフと散歩に出かけ、植物や子犬に触れ、楽しめる時間をもてるようにしている。時には地域の行事等に赴いたり、家族様と出かけられることもある	天気の良い日は周辺の神社等に散歩をしたり、コンビニへ買い物に出かけています。外出を好まれない方には、ウッドデッキで外気浴を楽しんでもらっています。地域行事に参加したり、遠出の企画や定例化している万博公園への花見には家族も誘って出かけています。	

ニチイケアセンター守口大日 認知症対応型共同生活介護（1階 萌）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったり、希望のものがあれば、職員が代行して買い物に行くこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事のお知らせを、ご入居者の方からご家族様にあてて書いていただいたり、年賀状にてやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、清潔な空間で安全に居心地よく過ごしていただけるよう工夫している	利用者との共同作業で室内の飾り付けをしたり、出来るだけ季節感が出るように心がけています。職業体験の小学生からのお便りは、利用者の笑顔を引き出す思いのこもったもので、特に大切に飾られています。夜間の職員によるモップかけで、共用の空間は、清潔が保持され居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりソファーに座られたり、お好きな場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの私物を持参し、相談のもと家具などの配置をおこない、居心地よく生活していただけるよう支援している	自宅で使われていた物を持参してもらえるように声をかける事で、テーブルや籐の椅子、TVや仏壇などが持ち込まれ、その人らしい居室となるよう配置されています。絨毯を敷き布団の上げ下ろしで生活されている利用者もおり、自由な住まい方を支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	折り紙、塗り絵、パズルなどできる範囲のお手伝いをしていただき、自立支援している		